

【精神保健福祉センターとは】

北九州市立精神保健福祉センターは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に規定される精神保健福祉の分野における専門機関です。平成9年4月1日に設置されました。

精神保健福祉センターは、「市民の皆さんのこころの健康の保持推進と、精神障害者の方の自立支援」のために、市レベルの精神保健福祉の中核として保健福祉局障害福祉課、保健所、各区役所の保健福祉相談コーナーとともに、支援や啓発などの活動を行っています。

【周辺地図】



【交通アクセス】

- JR小倉駅から徒歩15分
- 西鉄バス「市立医療センター前」バス停より徒歩3分
- 西鉄100円バス(周遊外回り)を利用すると、総合保健福祉センター正面入り口前に「市立医療センター前」バス停があります
- モノレール旦過駅からは、歩道橋でセンター2階に直結(徒歩2分)

【駐車場について】

- 収容台数64台(内8台は身体障害者専用)。
- 駐車料金は、30分150円です。

入院医療中心から地域生活中心へ

精神保健医療福祉の改革ビジョン研究ページ

hyyp://www.ncnp.go.jp/nimh/keikaku/vision/index.html

お問い合わせ先

北九州市保健福祉局障害福祉部精神保健福祉センター

〒802-8560 北九州市小倉北区馬借一丁目 7-1

北九州市総合保健福祉センター「アシスト21」5階

TEL (093)522-8729 FAX (093)522-8776

●開設時間：平日8時30分から17時15分まで(土日祝日・年末年始は休み)

こころの バリアフリー宣言

精神疾患を正しく理解し、新しい一歩を踏み出すための指針



北九州市保健福祉局障害福祉部精神保健福祉センター

あなたは絶対に自信がありますか、 心の健康に？

第1 精神疾患を自分の問題として考えていますか？(関心)

- 精神疾患は、糖尿病や高血圧と同じで誰でもかかる可能性があります。
- 2人に1人は過去1ヶ月間にストレスを感じていて、生涯を通じて5人に1人は精神疾患にかかるといわれています。

第2 無理しないで、心も身体も(予防)

- ストレスにうまく対処し、ストレスをできるだけ減らす生活を心がけましょう。
- 自分のストレスの要因を見極め、自分なりのストレス対処方法を身につけましょう。
- サポートが得られるような人間関係づくりにつとめましょう。

第3 気づいていますか、心の不調(気づき)

- 早い段階での気づきが重要です。
- 早期発見、早期治療が回復への近道です。
- 不眠や不安が主な最初のサイン。おかしいと思ったら気軽に相談を。

第4 知っていますか、精神疾患への正しい対応 (自己・周囲への認識)

- 病気を正しく理解し、焦らず時間をかけて克服していきましょう。
- 休養が大事、自分のリズムをとりもどそう。急がばまわれも大切です。
- 家族や周囲の過干渉、避難は回復を遅らせることも知ってください。

社会の支援が大事、 共生の社会を目指して

第5 自分で心のバリアを作らない(肯定)

- 先入観に基づくかたくなな態度をとらないで。
- 精神疾患や精神障害者に対する誤解や偏見は、古くからの慣習や風評、不正確な事件報道や情報等により、正しい知識が伝わっていないことから生じる単なる先入観です。
- 誤解や偏見に基づく拒否的態度は、その人を深く傷つけ病状をも悪化させることさえあります。

第6 認め合おう、自分らしく生きている姿を(受容)

- 誰もが自分の暮らしている地域(街)で幸せに生きることが自然な姿。
- 誰もが他者から受け入れられることにより、自らの力をより発揮できます。

第7 出会いは理解の第一歩(出会い)

- 理解を深める体験の機会を活かそう。
- 人との多くの出会いの機会を持つことがお互いの理解の第一歩となるはずです。
- 身近な交流の中で自らを語り合えることが大切です。

第8 互いに支えあう夜会づくり(参画)

- 人格と個性を尊重して互いに支えあう共生社会を共に作り上げよう。
- 精神障害者も社会の一員として誇りを持って積極的に参画することが大切です。

精神疾患を自分の問題として 考えていますか



精神疾患は、糖尿病や高血圧と同じで誰でもかかる可能性があります。
2人に1人は過去1ヶ月間にストレスを感じていて、生涯を通じて5人に1人は精神疾患にかかるといわれています。

無理しないで、 心も身体も



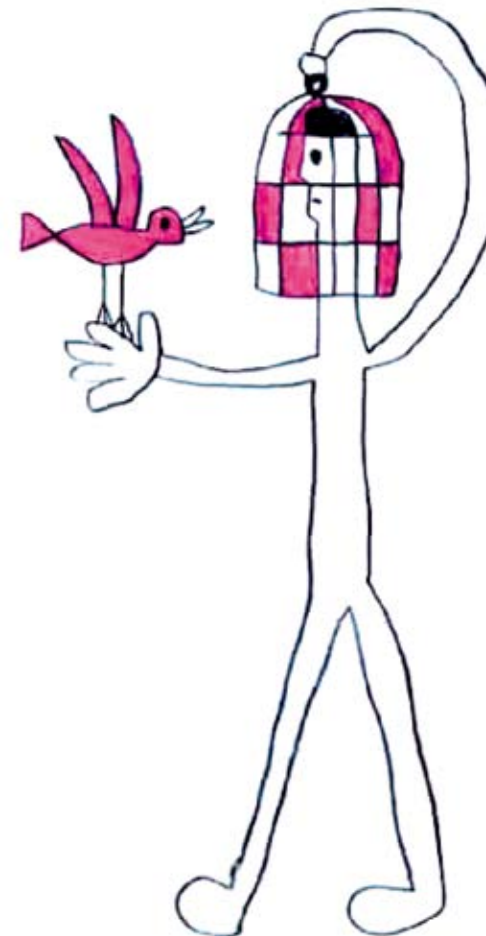
ストレスにうまく対処し、ストレスをできるだけ減らす生活を心がけましょう。
自分のストレスの要因を見極め、自分なりのストレス対処方法を身につけましょう。
サポートが得られるような人間関係づくりにつとめましょう。

気づいていますか、 心の不調



早い段階での気づきが重要です。
早い段階での気づきが重要です。
早期発見、早期治療が回復への近道です。
不眠や不安が主な最初のサイン。
おかしいと思ったら気軽に相談を。

知っていますか、 精神疾患への正しい対応



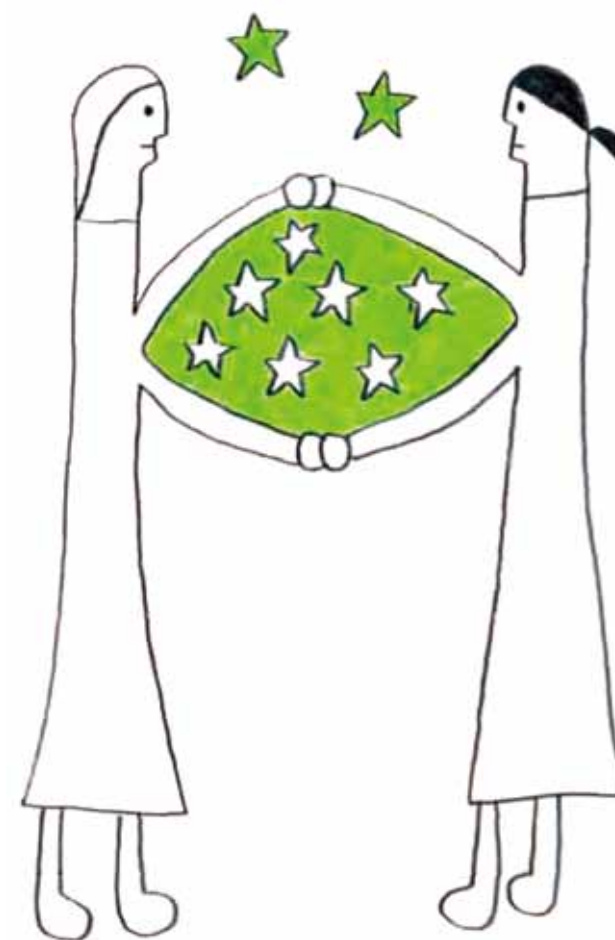
病気を正しく理解し、焦らず時間をかけて克服していきましょう。
休養が大事、自分のリズムをとりもどそう。
急がばまわれも大切です。
家族や周囲の過干渉、非難は回復を遅らせることも知ってください。

自分で心のバリアを 作らない



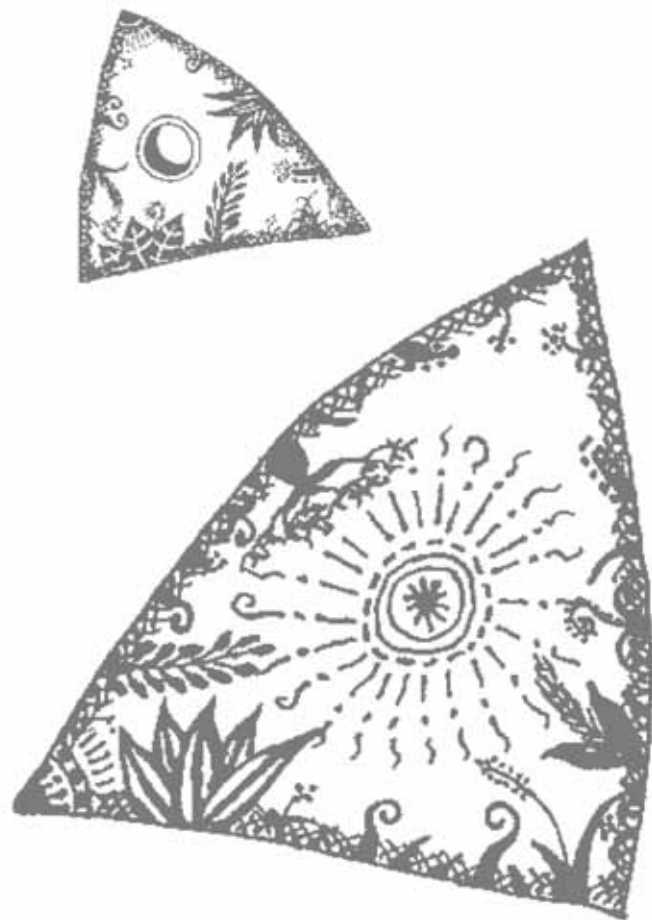
先入観に基づくかたくなな態度をとらないで。精神疾患や精神障害者に対する誤解や偏見は、古くからの慣習や風評、不正確な事件報道や情報等により、正しい知識が伝わっていないことから生じる単なる先入観です。誤解や偏見に基づく拒否的態度は、その人を深く傷つけ病状をも悪化させることさえあります。

認め合おう、 自分らしく生きている姿を



誰もが自分の暮らしている地域（街）で幸せに生きることが自然な姿。
誰もが他者から受け入れられることにより、自らの力をより発揮できます。

出会いは 理解の第一歩



理解を深める体験の機会を活かそう。
人との多くの出会いの機会を持つことが
お互いの理解の第一歩となるはずです。
身近な交流の中で自らを語り合えることが
大切です。

互いに支えあう 社会づくり



人格と個性を尊重して互いに支えあう共生
社会を共に作り上げよう。
精神障害者も社会の一員として誇りを持
って積極的に参画することが大切です。